

# 心の病「まず相談を」

## 仙台的有志 中学生向け冊子作成

NPO法人や大学講師らでつくる「みやぎこころのデザイン教育実行委員会」が、中学生に心の健康を保つためのワークブックを発行した。実行委は「誰かに相談することの大切さを知ってほしい」と訴える。

ワークブックはB5判、カラー29頁。うつ病など心の疾患をイラストやデータを交えて分かりやすく解説している。自分自身で行うストレス対処法のほか、家族や友



実行委が中学生向けに作成したワークブック

人などつながりのある人々を挙げて、自分の役割や相談相手を確認するページも設けた。

実行委は2012年に発足。中学生を対象にメンタルヘルスの啓発活動に取り組み、13～15年度は文部科学省の委託を受け、県内の中学校と高校計約30校でワークショップ中心の出前講座を実施した。ワークブックも県内の中学校の養護教諭に配布し、今後の出前講座で活用する。

東日本大震災で被災した児童生徒の心のケアやいじめ、不登校などの問題を抱える県内の学校現場では、スクールカウンセラーの配置拡充など相談体制の整備が進む。一方で「相談するのは心が弱い人」と考え、悩みを抱え込む子どもも少なくないという。

実行委事務局で、心の病を抱える若者の就労支援を続けるNPO法人Switch(仙台市)の高橋由佳理事長は「若い頃から正しい知識を身に付けることが予防につながる。差別や偏見をなくし、他者に手を差し伸べることもできる」と話す。

## 希望の輝き 永遠なれ 石巻サン・ファン祭り前夜祭



夜の港に照らし出された復元船サン・ファン・バウティスタ号  
 21日午後7時ごろ、石巻市の県慶長使節船ミュージアム

慶長遣欧使節船サン・ファン・バウティスタ号の復元を祝う「サン・ファン祭り」(実行委員会主催)の前夜祭が21日、石巻市のサン・ファンパークと県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)であり、老朽化が著しい復元船がライトアップされた。

会場はベリータンスなどのステイジイベントでにぎわい、午後6時すぎに復元船が照らされた。来場者は展望棟から見下ろし、日没とともに浮かび上がった幻想的な光景を楽しんだ。

夫婦で訪れた石巻市の会社員高橋浩さん(58)は「とてもきれいだった。東日本大震災からの復興のシンボルなので、保存の方法を工夫して残してほしい」と話した。

サン・ファン祭りは22日午前10時に始まり、伝統芸能や鼓笛隊、マーチングバンドなどが盛り上げる。

木造の復元船は1993年完成。老朽化が進み、3月から乗船できなくなっている。サン・ファン館は今年、開館20周年。22日は入館無料となる。

みやぎ

総合